

教育目標		心身豊かに学び合う子どもの育成～対話を通して主体性を育む教育活動の実現を目指して～						
重点目標		①個々の個性や能力に応じた学びの充実 ②学校・家庭・地域が連携した教育(ビジョンの共有) ③自ら問いをもち、対話や探究を通して課題解決に向かう子の育成 ④根拠にもとづき自分で判断し、自己決定できる子の育成 ⑤望ましい生活習慣(食・睡眠)の実践 ⑥小中9年間を見据え、授業改善に努め、ともに学び続ける教師集団						
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のと	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①授業づくりにおいて、教科横断的な視点を持った授業づくりのあり方を研究する。  ②読み書き計算など、基礎的な学力を児童に定着させるための教育活動を計画する。  ③主体的に学びへ向かう力や意欲を育てる。	①国語を基幹とし、他教科の学びを生かしたカリキュラム・マネジメントを取り入れた授業づくりを推進する。  ②配慮を要する児童に対する手立てを具体化し、全ての児童の授業参加を促す。  ②学力向上委員会において、系統的な朝学習のとりまとめや、学力テストの結果に基づいた対策などの検討を行う。  ③地域学校協同活動を教育活動の場面に生かしたり、土曜学習で家庭や地域と連携したりして、学びの意欲を育てる。	①学校評価職員アンケート「授業づくりにおいて、教科横断的な視点を持った授業づくりを行った」の項目について、肯定的意見の割合が70%を目指す。  ②学校評価児童アンケート「学校の授業はわかりやすいですか」の項目について、肯定的意見の割合が(前年水準)を目指す。  ②学校評価保護者アンケート「お子さんは学力が定着していますか」の肯定的意見の割合が昨年度を上回る。  ③学校評価児童アンケート「笹ポーターさんや地域の方に学習を助けてもらって力がついたと思いますか」の項目で肯定的意見が80%を超える。	B	①【成果】肯定的意見の割合が83.3%と、目標に達した。  ②【課題】肯定的意見の割合が92.7%(昨年度95.1%)  ②【課題】肯定的意見の割合が83.3%(昨年度85.8%)  ③【成果】肯定的意見が93.9%と目標に達した。	①校内研究を通して、カリキュラムマネジメントの視点を意識した授業と学びのデザインを引き続き研鑽していく。  ②見通し(単元ナビ)、ふりかえり等学びの言語化を重視し、児童個々における理解の自覚化を促す。また、その過程で児童一人ひとりについて、つまずきの早期把握と個別最適な支援を行う。  ②単元テスト結果のポートフォリオを懇談時に保護者に配布すること、到達目標と評価規準を明確にして保護者に伝えること、を通して、家庭学習と学校教育の接続を意識する。学校と家庭の両面から、児童一人ひとりの学力定着を目指す。  ③地域の方や笹ポーターと継続して連携を図り、児童の意欲向上へつなげる。	・達成目標を大きく超えた成果となっている①、③については更なる向上を目指して取り組んでいただきたい  ・②については改善策をより具現化して実行していただきたい。学校と家庭の両面から学力の定着を目指しさらに注力してほしい。学力の定着となると、学校と家庭の連携が重要になる。一人一人の状況に応じた支援を引き続き進めてほしい。  ・③についてはマンネリにならないように取り組みについて相互に検討する必要性がある。笹ポーターが授業にかかわれることを提案してもらえと協力しやすい。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①教師・児童が効果的にICT機器を活用し、わかりやすい授業作りを努める。 情報教育(プログラミング教育・情報モラル・セキュリティ)の周知・推進を行う。	①年間カリキュラムにある情報モラルの指導に併せて、4、5、6年生の出前授業を設定する。  ①③タブレットの活用に関しては、AIDRILLの宿題実施も含めて引き続き行っていこう周知していく。  ①③情報機器・School Taklについての基本的な使い方についての研修会・回覧等を実施するとともに、タブレット端末の使い方の研修を行う。  ①③プログラミング教育の基本的な取り組みについて研修を行い、周知を図る。	①③学校評価教師アンケートの「本校は児童・保護者の個人情報保護に努めている。」で昨年度と同程度の肯定的な回答の割合を維持を目指す。(昨年度100%)  ①学校評価保護者アンケートの「学校は子ども・保護者に関する個人情報を適切に保護していますか。」で肯定的な回答の割合が80%を超える。(昨年度88.2%)  ①③学校評価児童アンケート「先生は、ICT機器(テレビやパソコン・タブレット等)を使って、教える方になっていますか。」で肯定的な回答の割合が90%を超える。(昨年度95.5%)  ①学校評価保護者アンケート「タブレットの活用によりお子様の学習意欲が向上していますか」で肯定的な回答の割合が80%を超える。(昨年度72.6%)  ①③学校評価児童アンケート「あなたは家(学校の外)で、「AIDRILL(ドリルワーク)」や「スクールタクト」を1週間ほどどれくらい学習に使っていますか」で肯定的な回答の割合が70%を超える。(昨年度76.3%)	B	①③【成果】肯定的割合が100%だった。  ①【成果】肯定的な回答の割合が84.6%だった。  ①③【課題】肯定的な回答の割合が89.1%だった。  ①【課題】肯定的な回答の割合が68.4%で目標の80%を超えなかった(-11.6%)。(昨年度72.6%→今年度68.4%)  ①③【課題】肯定的な回答の割合が67.6%で目標の70%を超えなかった(-2.4%)。(昨年度76.3%→今年度67.6%)  ②【成果】肯定的な回答の割合が80%を超えた。(87%)	①児童がタブレットを使った学習に慣れ、目新しさが無くなっているのかもしれない。タブレットなどを使うことに固執して、学力向上に沿わないことも危惧される。目標値の設定も検討したい。  ①水曜日・金曜日の宿題でのAIDRILLの活用を動めていきたい。児童がタブレットを学習外の遊びに使っている事もあるかもしれないので、使い方を指導していきたい。また、質問内容の変更を検討したい。一案「タブレットを活用してお子様は学習していますか」  ①③回答項目の「1～2日間使っている」が否定的な回答項目に位置付けられており、水曜日の宿題で出している分だけけている児童は否定的になってしまう。家庭でのマイルーンド、キュボナの活用は推進していく。回答項目の見直しも検討したい。	・①メリハリのあるタブレット使用を望む。 タブレットのメリット・デメリットを各先生方で共有し教科書との上手な活用方法を全体で検討してほしい。 デジタル化の促進の中、あふれる情報から適正な自己決定ができるように成長に応じて子供たちが関心を持つ情報教育の必要性が重要だと感じる。 情報モラルやセキュリティについて重点的に推進してほしい。 タブレット活用が目的にならないように、授業改善のツールとして、ICTならではの価値の創造、定着を目指していくとよい。

<p>これた児童・生徒の育成</p>	<p>①学校教育活動を通して道徳教育の中の内容項目B・・・主として人との関わりに関すること、C・・・主として集団や社会との関わりに関することを強化していく。</p> <p>②いじめや問題行動の未然防止や早期発見、対応を図り、いじめをゆるさない雰囲気全員で作る。</p>	<p>①長期休み親子読書の実施、教科書や心シリーズを持ち帰り、その中から学年の先生からのおすすめとして学習した内容項目BとCの教材を明記し、ふりかえりを書いてもらう。いじめアンケートをする際には、いじめとはどのようなものなのか説明する。体育大会や音楽会、園工展等の学校教育活動を通して、学年、学校の児童がい人々のがんばりを認めあえる関わりを意識できるように声をかける。</p> <p>②いじめアンケートの聞き取り調査や心の健康観察から、いじめの早期発見、対応に努める。</p> <p>②夏季休業中に職員研修会を行う。</p> <p>②仲間づくり集会を行い、発表や事後指導を通して、より良い学級づくりに取り組む。</p>	<p>①児童アンケートで「あなたのクラスでは、いじめを許さないクラスづくりに取り組んでいますか。」の項目に対して肯定的な回答が90%以上である。(昨年度92%)</p> <p>①児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて学んでいますか。」の項目に対して肯定的な回答が95%以上である。(昨年度95.2%)</p> <p>②保護者アンケートの「学校はいじめや心の問題などに適切に取り組んでいるか」の項目に対して肯定的な回答が80%以上である。(昨年度76.6%)</p> <p>②児童アンケートで「あなたのクラスでは、いじめを許さないクラスづくりに取り組んでいますか。」の項目に対して肯定的な回答が90%以上である。(昨年度92.2%)</p> <p>②教職員アンケートで「本校は、問題行動が起きたとき、組織的に対応できている。」(昨年度87.1%)「本校の教師は悩みや不安を抱えている児童の相談にのっている。」(昨年度94.1%)「本校はいじめを許さない学校、学級づくりに取り組んでいる。」(昨年度97%)の項目に対して肯定的な回答が80%以上である。</p> <p>③保護者アンケートにおいて「お子さんは楽しく学校に行っているか」の項目に対して肯定的な回答が90%以上である。(昨年度92.8%)</p> <p>③児童アンケートで「クラスで苦手なとををがなげている友だちを応援できていますか。」(昨年度94.3%)「あなたが困っているときに先生は相談にのってくれますか。」(昨年度93.3%)の項目に対して肯定的な回答が80%以上である。</p> <p>③児童アンケートの「早寝・早起きができるか」の項目において肯定的な回答が70%以上である。(昨年度68.3%)</p> <p>④児童アンケートで「環境体験(自然学校)を通して、自分の成長を感じることができた」と回答した割合が80%以上である。</p>	<p>①【成果】肯定的意見が91%だった。</p> <p>①【課題】肯定的意見が94%だった。</p> <p>②【課題】肯定的な回答が69.5%だった。</p> <p>②【成果】肯定的な回答が91.6%だった。</p> <p>②【成果】肯定的な回答が100%だった。 【成果】肯定的な回答が97.2%だった。 【成果】肯定的な回答が100%だった。</p> <p>②【成果】夏季休業中に、職員研修として、「子どもの人権を尊重した対応について」を演題に講師により講演会をもち、具体的な事例についての質問にも答えていただいた。</p> <p>③【成果】肯定的な回答が95.4%だった。(目標90%)</p> <p>③【成果】肯定的な回答が93%だった。(目標80%) 【成果】肯定的な回答が94.2%だった。(目標80%)</p> <p>③【課題】肯定的な回答が65.6%だった。(目標70%)</p> <p>④【成果】肯定的意見の割合が94%と、目標に達した。</p>	<p>②夏季休業中に、職員の要望に添った研修会をゆくり時間として実施する。1本は「性の多様性についての理解を深める」ための研修会を行う。</p> <p>②笹原中学、摂陽小学校と連携をとり、本校として仲間づくり集会の意義、内容、方法などを整理する。</p> <p>②仲間づくり集会は、学年ごとに時期を決めて実施することとした。決めた時期が異なる傾向にあったので、部会での確認や担当からの声かけが必要。</p> <p>②いじめアンケートの聞き取り調査を三学期でも取り組むことはいじめの早期発見、解決に取り組んでいく、また、心の健康観察を毎日欠かさず行う習慣を付けさせる。</p> <p>③ミニケース会議を来年度も積極的にを行い、不登校傾向の児童に対して組織的に支援できるようにしていく。</p> <p>③睡眠教育アンケートを行い、自分の睡眠時間をふり返らせ、早く寝ることを心がけていく。</p> <p>④環境体験や自然学校が児童にとって成長を感じる重要な学習であるため、その年にあった計画を立て、内容の充実を図っていく。</p>	<p>②いじめについては、早期に芽を摘むことが重要である。各学年やクラスで子どもたちの声やサインを見落とさないように教師間の情報共有にも力を入れてほしい。</p> <p>①「心の健康観察」で毎日気持ち発信できる機会があるのが大切である。</p> <p>③CSとして、不登校・遅刻に関しては交流会での意見を参考に取り組み可能なことから始めていきたい。</p> <p>地道な活動を継続して成果をあげられている。学校・家庭・地域が連携して地道な活動を継続していくことが重要だと考える。</p> <p>早寝・早起きについては就学前からも大切なことなので、保護者への啓発も含めて就学前から取り組んでいきたい。</p> <p>自分の睡眠をふり返る機会として「笹っこ健康プロジェクト」を活用してほしい。</p> <p>月曜日に遅刻や欠席が多いことから、「学校へ行きたい」と思える楽しい取り組みを朝に行うことができれば、「行こ」という気持ちが出るのではという意見を踏まえ、スポーツクラブ21でできることを考えていきたい。</p>
<p>「健やかな体」の育成</p> <p>①児童生徒の体力向上の促進 ②発達段階に応じた健全な食育の推進</p>	<p>①児童の体力、運動技能の向上を目指し、運動への意欲・関心を高める。</p> <p>②発達段階に応じた、望ましい食習慣の推進。</p>	<p>①授業作りについての研修を行い、授業改善を計る。(体力向上、楽しい運動遊び、ニュースポーツなど)</p> <p>①朝の休み時間を再開し、屋外で遊ぶ習慣をつける。</p> <p>①備品を整理するために、どこに何がおいてあるかわかるように視覚的な配慮をする。</p> <p>①各単元が始まる前に備品や消耗品のチェックを行う。</p> <p>②学校給食における残食軽減を図るため、給食委員会による残食調査を実施する。</p> <p>②食事の大切さや望ましい食事量摂取が自分たちの健康に必要なことと意識できるように、給食委員によるポスター作りを実施し各クラスに行き呼びかけを行う。</p>	<p>①学校評価児童アンケートの「休み時間や家に帰ってから外で遊んでいますか。」の項目で肯定的意見の割合が75%を超える。(昨年度72.8%)</p> <p>①学校評価児童アンケートの①「学校の図書館や体育館は利用しやすいと思いますか。」②「学校の道具や器具が壊れたとき、すぐに修理してくれると思いますか。」の項目で肯定的意見の割合が9割以上になる。(昨年度①93.9%②87.3%)</p> <p>②適切な栄養摂取量を知り、給食残食が15%以下を目指す。</p> <p>②自分の望ましい食習慣を知り、児童アンケートで朝食を食べて学校に来ている。」と肯定的に回答した割合が80%以上である。</p>	<p>①【課題】71%で、過去3年間で減少しつつ伸びている。3～6年生の間で、ゆるやかに減少傾向が見られる。(3年77%、4年73%、5年71%、6年67%)</p> <p>①【成果】体育委員会として「みんなで鬼ごっこ」を企画し、試験的に学年別で実施してきた。現状、一月に1回順番が回ってくる。</p> <p>①【成果】朝の休み時間を再開したことで、朝の外遊びを楽しみに登校する児童も見られた。</p> <p>①【課題】93.6%で微減②82.4%で4.9ポイント減少している。</p> <p>②【成果】残食調査では8%だった。</p> <p>②【成果】肯定的意見の割合が94.6%となった。</p>	<p>①「みんなで鬼ごっこ」の企画を、複数学年で遊べるようにして、今年度よりも早いサイクルで実施していく。</p> <p>①朝の休み時間については継続し、今後も様子を見守っていく。</p> <p>①備品や消耗品のチェックを引き続き行う。</p> <p>②給食委員会を中心に高学年は残食調査を継続して行う。</p> <p>②給食委員によるポスターを作成し、自分たちの健康に食事が影響していることを伝えていく。</p>	<p>①体育委員会で児童自身が考える機会を作り、成果をあげている。今後も児童自身の自主性を育む指導をお願いしたい。</p> <p>高学年になるにつれて帰ってから外で遊ぶことは難しくなる中で、学校で外で楽しく活動できるように企画をしていることが良い。</p> <p>②早寝・早起きができる割合に比べ、朝食はきちんととれているのだと安心した。</p>
<p>教育相談・支援体制の充実</p> <p>①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実</p>	<p>①将来の夢や目標をもち、自分らしくましく、主体的に取り組む児童を育てる。</p> <p>②保護者や児童の困り感にすぐ気づき、SC・SSWにつなぐことができる。</p> <p>③特別支援教育Co.が中心となって、支援体制を構築し、運用していく。必要に応じて関係機関と連携を図る。</p>	<p>①「キャリア・パスポート」を活用し、4月に1年の目標設定を記入させる。10月にと2月に自己活動のふり返りをさせる。子どもの成長を見取り、教師や保護者がコメントを記入し、今後の意欲を持たせる。</p> <p>②担任と保護者の電話や面談等で、保護者のニーズを把握した上でSC・SSWへの相談を提案する。</p> <p>③支援体制を可視化し、学年、特別支援部会、管理職間の円滑な連絡体制の確立、校内職員の共通理解を徹底し、関係機関との連絡や調整等を行う。</p>	<p>①児童アンケートで「自分は、将来の夢や職業について考えている」と回答した割合が80%以上である。また、教職員アンケートで「児童に夢をもつこと、仕事や働くことの大切さを教えている」と回答した割合が80%以上である。</p> <p>②児童アンケートで「あなたが困っているときに、先生は相談に乗ってくれる」と肯定的に回答した割合が90%である。(昨年度93.3%)</p> <p>③学校評価アンケート(教職員用)において「本校は校内委員会やコーディネーターを置き、組織的に取り組んでいる。」(昨年度97%)という項目で肯定的な割合を維持する。</p>	<p>①【成果】児童アンケートで肯定的意見が81.4%だった。また、教職員アンケートで肯定的意見91.7%だった。(目標80%以上)</p> <p>②【成果】児童アンケートで肯定的意見が94.2%だった。(目標90%)</p> <p>③【成果】肯定的な意見が100%だった。</p>	<p>①引き続きキャリアパスポートの取り組みを続け、自己活動の振り返りや次年度の活動への見通しを持たせる。</p> <p>②担任が電話や面談を変わらない頻度で取り組み続け、支援を必要としている児童にSC・SSWへつなぐように心がける。</p> <p>③引き続き、校内の支援体制を整え、組織的に取り組んでいく。</p>	<p>①キャリアパスポートを活用し、児童自身に目標を設定させ、意欲的に取り組む体制ができている。引き続き、この体制を強化充実させてほしい。</p> <p>②③先を見通しての支援と目下の課題に大しての支援・両方を丁寧に行っていると感じた。</p>

<p><b>特別支援教育の推進</b></p> <p>①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実</p>	<p>②一人一人の教育的ニーズを把握し、必要に応じて関係機関と連携を図り、適切な指導・支援を行う。</p>	<p>②教育のユニバーサルデザイン化を推進し、基礎的環境整備を図る。</p> <p>②支援教育研修会で各学級の配慮を要する児童や特別支援学級在籍の児童、通級による指導を受ける児童についての理解を深める。</p> <p>②部会(校内委員会)で支援の必要な児童について整理・報告し、全職員で共有する。 ②各学級の配慮が必要な児童に対し、どのような合理的配慮を行うとよいか、様々なケースから具体策を検討する研修を行い、日々の実践にいかす。</p>	<p>②教育のUD化チェックシートを用いて18項目をチェックし、「意識できている」の後期の数値が、前期の数値を上回る。</p> <p>②学校評価アンケート(教職員用)において「本校は学習面・生活面等で児童が学びやすく、過ごしやすい環境づくりに向けて基礎的環境整備(UD化)に取り組んでいる。」(昨年度100%)で肯定的な回答の割合を維持する。</p> <p>②学校評価アンケート(保護者用)において、「学校は、教育のユニバーサルデザイン化に取り組んでいますか。」の項目で、肯定的な回答の割合が80%を超える。(昨年度82.2%)</p> <p>②学校評価アンケート(教職員用)において、「本校は学習面・生活面等で配慮を要する児童に対する具体的な指導の手立てを工夫して指導を行っている。」の項目で95%を超える。(昨年度100%)</p> <p>②学校評価アンケート(児童用)、「クラスで苦手なことを頑張っている友だちを応援できていますか。」の項目で肯定的な回答の割合が90%を超える。(昨年度94.3%)</p>	<p><b>B</b></p> <p>②【成果】教育のUD化チェックシートの後期の数値が、前期の数値を上回った。</p> <p>②【成果】アンケートにおいて97.3%と100%で肯定的な回答の割合を維持することができた。</p> <p>②【課題】アンケートの肯定的意見が78.1%、否定的な回答は昨年度より減ったもの、わからないという回答が20%に達し、学校で行っている取り組みが保護者に十分に伝わっていない。</p> <p>②【成果】アンケートの肯定的意見が97.3%となった。</p> <p>②【成果】アンケートの肯定的意見が93%となった。</p> <p>②【課題】配慮を要する児童に応じた具体的な支援方法について、教職員間での共通理解に差が生じている可能性がある。</p>	<p>②HP以外にも学校だよりやまなびポケット、懇談会等で、UDの具体例(掲示物、授業の工夫等)をわかりやすく紹介する。</p> <p>②個別の指導・支援の工夫について事例交流を行い、実践のバリエーションを増やす。</p>	<p>②UD化チェックシートを活用され、促進に注力して成果をあげている。障がいのある人の気持ちを十分認識していることが大前提であり、合意形成が重要であると考え。</p> <p>UDについては、保護者のなかでも理解されていない方もいるのではないかと。そもそもUDとは何かも含め、紹介や周知の頻度をあげていければよいのでは。取り組み内容を保護者にも視覚的にわかりやすく周知できればと感じた。互いに認め合える仲間づくりができていくと感じた。</p> <p>配慮を要する児童への具体的な支援については、共通した思いで、支援対応をお願いしたい。</p>
<p><b>教職員の資質向上</b></p> <p>①研修等の充実</p>	<p>①指導方法の工夫・改善を図り、魅力ある授業を展開する。</p>	<p>①校内研修を通して相互に研究を深める。</p> <p>①学習集団の特性に加え、学習状況や興味・関心等、児童生徒一人一人の実態を把握するため、教育活動の様々な場面で、児童生徒を観察するとともに、学習履歴等のデータの利活用を図る。</p>	<p>①学校評価児童アンケート「学校の授業はわかりやすいですか」の項目について、肯定的意見の割合が(前年水準)を目指す。</p>	<p><b>B</b></p> <p>①【課題】肯定的意見の割合が92.7%(昨年度95.1%)</p>	<p>①通常の校内研修に加え、教員同士で教えあうミニ講座を年間通して開催し、職員の資質向上に努める。</p>	<p>①外部研修にも積極的に参加し、全校で共有する体制を作られてはどうか。あいさつができていない教職員も見かけるので、資質向上を目指してほしい。</p>
<p><b>学校を支える組織体制の整備</b></p> <p>①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築</p>	<p>①学校現場の実態やニーズを把握し、学校とコミュニティスクールとの、ビジョンの共有を図る。</p> <p>②地域との組織的な連携を強化していき、学校と地域の交流を深めることで、子どもたちの郷土愛育成を図る。</p>	<p>①児童の実態と現場のニーズを把握するため、教職員との懇談の機会をつくる。</p> <p>②地域行事や学校行事を通して、地域との協働関係を深める。 笹ポーターと子どもたちとの交流の機会を創出して関係を深めることで、子どもたちには地域と共に育っているということを実感させ、郷土を愛する心情を育てる。</p>	<p>①職員との懇談の機会を年1回行う。学校のニーズに応じた新たな活動が行われる。 学校運営協議会だよりを年間2回発行し、広報する。</p> <p>②学校評価アンケートの「笹ポーターさんや地域の方に学習を助けてもらって力がついたと思いませんか」「学校は保護者や地域の方と協力して、学校教育や社会教育を行っていますか」の項目で、肯定的な意見の割合が85%以上になる。</p>	<p><b>A</b></p> <p>①【成果】職員との懇談会は2月に実施することができた。不登校児童対策について地域連携を模索した。学校運営協議会だよりを年2回発行した。</p> <p>②【成果】アンケートで肯定的意見が93.9%と88.2%になった。</p>	<p>①引き続き年1回の懇談会を継続して行っていく。学校運営協議会だよりは年2回発行し、広くその取組について啓発していく。</p> <p>②今後も笹ポーターを中心に、地域住民との連携を密にしなが関係強化を図っていく。また児童が地域行事に積極的に参加できる機会を増やし、一層地域との関りを深めていく。</p>	<p>①懇談会は学校の現状や課題を知ることができ、同じ方向を向いて取り組むための良い機会であると感じた。懇談会以外にも普段から学校のニーズを出しやすい環境が必要だと感じる。</p> <p>②Win-winで活動できるように、壁を作らずお互いの信頼関係を強固にしていきたい。新年度の異動などに際してCSメンバーと教職員双方で顔を知ってもらう手立てや工夫がほしい。</p> <p>笹ポーターを通じた地域との連携は大変ありがたい取り組みになっていると感じる。児童と地域との関わりに教職員がどのように関わることが難しい。地域行事への児童の参加・学校行事への地域住民の参加を増やすため、情報交換を密にするための工夫が必要。</p>

<p>保育園環境の整備・充実</p>	<p>①地震・火災・不審者遭遇時、児童が自分で判断し、命を守るための行動をとることができるようにする。</p>	<p>①自分で災害や不審者から命を守るための指導や訓練を適切に行っていく。</p>	<p>①学校評価保護者アンケートの安全指導の項目「学校は火事や地震・不審者などの危機に適切に対応できるような指導や訓練を行っていますか」で肯定的な意見の割合が90%を超える。(昨年度86.3%)</p>	<p>①【課題】肯定的な意見の割合が83.5%と目標の90%を下回った。(昨年度86.3%)</p>	<p>①アンケートの回答で「分からない」の回答が①は14.1%と高かった。来年度も、引き渡し訓練を行ったり、ホームページや学校だよりなどを使って避難訓練の様子などを伝えていく。</p>	<p>①安全・安心は繰り返し訓練や教育を行っていくしかないで、あらゆる機会と場で注意喚起をお願いしたい。災害時に自主的に行動できるよう、日ごろからの意識づけが大切だ。急に引き渡しが必要になったときには、保護者連絡のタイトルに【緊急】などをつけて、すぐに確認できるようにするようお願いは、</p>
	<p>②正しい校内の過ごし方や廊下や通学路の歩き方、遊具の安全な使い方など安全に過ごすことができるようにする。</p> <p>③登下校時の通学の仕方、自転車の乗り方など交通ルールを守って通行することができるようにする。</p> <p>④児童が安全に学校生活を送れるよう、修繕・改修すべき施設・設備がないか確認するとともに、既存の施設を安全に使えるよう、また、新しい施設を快適に使えるよう児童に指導していく。</p> <p>⑤チームワークと時間対効果を意識した業務の推進を行う。</p>	<p>②廊下や通学路での正しい歩き方や児童が安全に遊具を使用できるよう、教職員が意識を統一させ指導にあたる。また、自転車講習(4年)を使って自転車の使い方を指導する。</p> <p>③終業式や学校朝礼による全体指導や資料を活用した学級指導などを通して啓発する。また、指導内容が家庭に伝わる工夫(手紙、懇談、まなびポケット等)をして啓発する。</p> <p>④毎月1回の安全点検を行い、技能員と連携して迅速な対応を行うとともに、安全な設備の使い方の指導を適直行う。</p> <p>⑤今年度は特に会議の見直しを行い、業務が円滑に進むように改善する。</p>	<p>②学校評価児童アンケートの安全指導の項目「学校の廊下や道路では、右側を広く歩かずに歩くことができるよう指導していますか」の項目で、肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度81.8%)</p> <p>③学校評価の保護者アンケートの「学校は校内での過ごし方や遊具の安全な使い方、交通ルールなどを指導していますか」の項目で、肯定的な意見の割合が80%を超える。(昨年度82.0%)</p> <p>④学校評価児童アンケートの施設・設備の項目「学校の道具や器具が壊れた時、すぐに修理してくれていると思いますか」の項目で、肯定的な意見の割合が85%を超える。(昨年度87.3%)</p> <p>⑤教職員用内部アンケートで、「各分掌・職員会議などにおいて業務改善がなされたか」で肯定的な意見が85%を超える。(昨年度88%)</p>	<p>②【課題】肯定的な意見の割合が78.9%と目標の80%を下回った。(昨年度81.8%)</p> <p>③【成果】肯定的な意見の割合が80.5%と目標の80%を上回った。(昨年度82.0%)</p> <p>④【課題】肯定的な意見の割合が82.4%と目標の85%を下回った。(昨年度87.3%)</p> <p>⑤【成果】肯定的な意見が87%と目標に達した。</p>	<p>②来年度は、朝礼や、終業式学級指導などを使って、こまめに児童に呼びかけたい。</p> <p>③アンケートの回答で目標を達成できたが、昨年度より下がっている。「分からない」の回答が多かったので、ホームページや手紙などで知らせたい。</p> <p>④来年度も毎月1回の安全点検を行い、技能員と連携して道具や器具の修繕にあたる。危険なものには、「使用禁止」の張り紙をして、児童に使用しないようにして安全を確保していく。</p> <p>⑤来年度は、目標を設定・共有し、それに向けてどのような業務改善ができるかを考え実践していくことで、系統立てた改善を目指していきたい。</p>	<p>②緊急事態発生時の対応マニュアルを整備し、保護者や地域に周知したい。また、保護者や地域が一体となって進める必要がある。</p> <p>④設備に関しては点検漏れのないようをお願いしたい。笹ポーターが清掃道具の整備を年1回行っているが、必要であれば回数を増やしてもいいのではないかと考えている。道具や器具の修繕で笹ポーターが関わられる部分があるか検討してほしい。子ども目線で気になる箇所がないか聞いてみていいのでは。</p> <p>⑤会議の見直しは必要。児童にとって必要な会議なのか判断基準となる。会議の形式は多人数が集まるものでなく、その都度事例発生場所ですら人数での打合せの上、全校へ展開する。</p>

**学校関係者評価総括**  
 さまざまな取り組みを通して、着実に信頼される学校づくり、魅力ある学校づくりが進んでいることが実感できる。今後も学校として確実に前進するためには、取り組みの成果の分析が必要である。例えばICT活用等による学力向上など、活用によって学力がどう変化したか、児童の学習に対するニーズはどのようなものか、支援はどこまで届いているかなど、きめ細やかな分析を通じた学力向上策を進める必要がある。また、学習規律の課題や、家庭学習習慣の確立などは、とりわけ中学校との連携を推進する必要があると考える。今後、学校づくりを児童・家庭・地域等に「見える形」で一層推進していただきたい。

**次年度に向けた重点的な改善点**  
 ・「笹っ子健康プロジェクト」などを通して、睡眠教育を進め遅刻や不登校の改善に生かしていく。  
 ・支援が必要な児童への支援方法を職員間でしっかり共有し、校内での支援体制として全職員が意識を統一する。  
 ・タブレットを学習に有効に活用できるように研修などを通して考えていく必要がある。  
 ・より一層子どもたちの学習や学校生活が豊かになるように、地域や笹ポーターなどと連携していく必要がある。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った